

牛久：学校周辺に見る自然

第18号 牛久二小

2013年9月5日発行

＜ 夏の校庭で生きもの観察 ②バッタ、カマキリ ＞

牛久二小4年生との、夏の校庭の生きもの観察、今回はバッタやカマキリの仲間です。



一番多かったショウリョウバッタの幼虫。褐色のもの(右)や触角を開いたもの(中)。

一番よく見られたのは、今年もショウリョウバッタでした。7月上旬、まだどれも、はねが伸びてない幼虫です。緑色のものだけでなく、褐色のものもいましたね(第12号参考)。触角(しよっかく)を開いて、おもしろい顔をしたものもいました。



クルマバッタの幼虫。褐色のものと緑色のものがある。左下はクルマバッタモドキか？



こちらは、クルマバッタの幼虫。前むねのせなかがまるくもり上がっていることや、頭のまん中にすじがあることなどから、よく似たクルマバッタモドキと見分けられますが、せなかのもり上がりの小さいものもいたり、とくに幼虫のうちにはそれらの特ちょうもハッキリしないこともあってむずかしいです。やはり緑色のものと褐色のものともがいます。

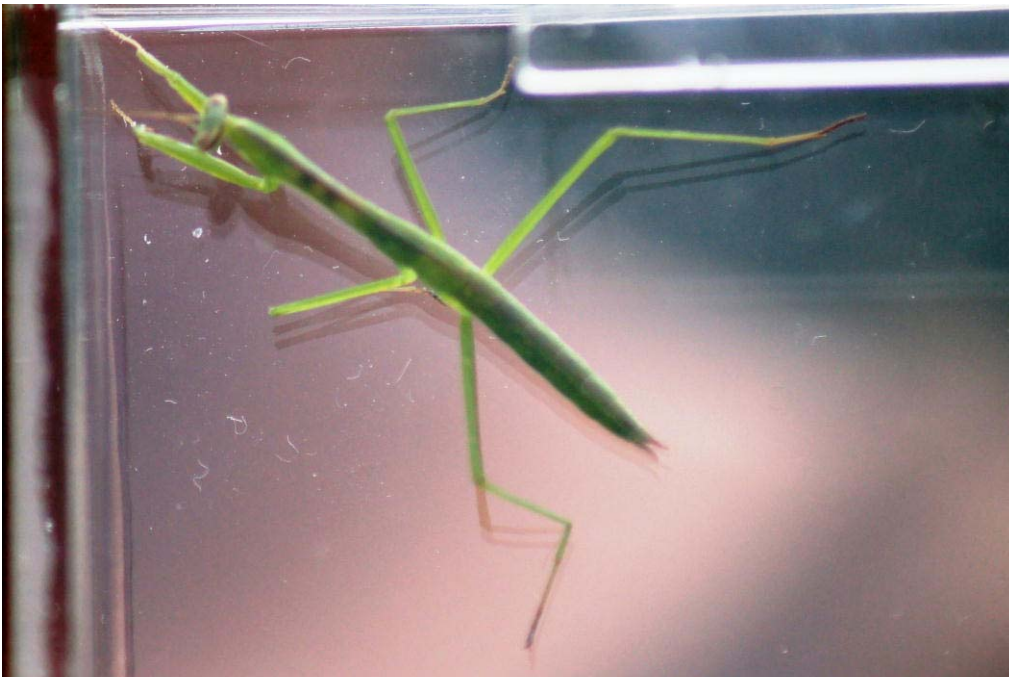


これも多かった、**ヒシバッタ**の幼虫。草場があればたい
てい見つけられ、住宅地のまわりでもよく見られます。この
バッタでは、成虫もけっこう見られましたね。その名の通り
ひし形の体形ですが、成虫でも体長5 mm～1 cm程度と
たいへん小さく、全体は灰褐色ですが、斑紋(はんもん)の
形や色はいろいろで、もようがないのもいるそうです。明る
い場所にすむものほど明るい体色で、暗く湿った場所のものは暗い色をしている
ようですが、いかがでしょう？はねは短
くて飛ぶことができず、地上や草の上をピョンピョンとはね
ます。えさは、地上に生える藻類を食べるそうです。

その名の通り、ひし形の体形をしたヒシバッタの幼虫。
体色やもようはいろいろだが、とても小さく、はねが
短くて飛べないので、ぴよんぴよんと跳ねて移動する。



こちらは、**マダラスズ**の
幼虫。黒っぽい体と、後ろあ
しのしまもようが特ちょう。
道ばたの草地や、住宅のまわ
りでもよく見かけます。
後ろあしのしまもようの特ちょう
の、マダラスズの幼虫。



カマキリも見つけ
てくれましたね。

オオカマキリの幼
虫でした。やはり、
はねがまだ伸びてい
ません。小さくても、
ちゃんと鎌で威嚇し
てきます。

小さくても、鎌(かま)
で威嚇(いかく)して
くるオオカマキリの
幼虫。幼虫なので、
やはりはねはまだ伸
びていない。



アベリアの枝には、**ハラビロカマキリ**の卵のうが二つ並ん
でついていました。まだふ化してないようでした。

ということで、報告が遅くなりましたが、バッタやカマキリ
については、7/3には大部分が幼虫でしたね。今週か来週に
は、夏の終わりの生きものを観察します。どうなっているか？
変化が見られるか、観察しましょう。【理科支援員：宮内】

アベリアの枝に、二つ並んでついていたハラビロカマキリの卵のう。